



# 天竜材 | TENRYU-ZAI Product Catalog



page.02-  
まっすぐに



page.08-  
天竜材の特徴



page.10-  
天竜材を使う



page.12-  
天竜材製品ラインナップ

page.34-  
木造住宅構造図

page.37-  
木材製品Q&A

page.40-  
天竜材の  
納品経路と日数

## INDEX

page.42-  
木材の基礎知識



page.46-  
木の家に住む



page.48-  
天竜の木を使うということ  
天竜材製品に関するお問い合わせ





## 28.5

目線位置での木の直径 (cm)を表す数字。木は根元から一番玉、二番玉とよばれ、上に行くに従い直径が小さくなり、獲れる材や強度が異なります。この数字を算出することで、わざわざ木を切ることなく全体の成長を把握し、適切なタイミングで伐採することができます。



TENRYU-ZAI

## まっすぐに

日本三大人工美林に数えられる天竜美林。木を植え、育て、材として搬出し、使うという林業のサイクルがこの美しい天竜の森林を造りあげてきました。その端は、秋葉山神社の境内林として植林されたことからといわれています。それから半世紀あまり、自然と向かい合いながら、先人たちの教えを守り、受け継いだ物を「まっすぐ」に後世へつなげてきました。その「まっすぐ」な思いは、期せずして森林の国際認証である「FSC®認証 (FM認証)」の審査の際に評価されました。天竜材はその特徴と同様に、材に関わる全ての人の「まっすぐ」な思いが詰まった製品です。

約10万haの天竜の森

温暖な気候が育んだ

TENRYU-ZAI | Locality



100,000 ha

天竜材の産地である天竜は、静岡県浜松市の北部に位置しています。南アルプス南西部に位置しているこの地域は、南アルプスと天竜川によって作られた急峻な山林地帯。一年を通じ温暖な気候に恵まれたこの地域では、江戸時代中期に本格的な植林がおこなわれ、さらに明治時代には、天竜川の治水事業としても積極的に植林されるなどして日本三大人工美林である「天竜美林」が形成されてきました。その木材は、天竜川や東海道線などの流通経路を使って、時代ごとの木材需要に応じてきました。



TENRYU-ZAI | silviculture

## 100年先の森を想い 木を植え続けていく

林業の仕事は「光を操ること」ともいわれています。節が出ないようにおこなう枝打ちや、木に光の栄養を届ける間伐など、しっかりと手入れされた山林は光があふれ、豊かな生態系が広がる環境。春～夏は下草を刈り、秋に枝打ち、木の水分量が少なくなる冬に伐採と、一年を通じて山を育てる仕事があります。天竜では1haに約3,000本～5,000本もの植林を行い、40年ほどかけて1,000本ほどに調整。50年後、100年後を見すえ、今切る木を判断していきます。目まぐるしいスピードで進む経済活動とは異なる時間軸の中で、目先の利益だけにとらわれない職人としての強い想いが引き継がれています。



木を材にする



TENRYU-ZAI | lumber

## 太さ、長さ、クセを見抜き 多品種の材をつくる

山から切り出された原木は、太さや曲がりなどの品質を確認しながら、サイズごとに選別。長い年月をかけ育てられた原木を無駄なく使うために最適な木取りを計算し、台車と呼ばれる大きな製材機械を使いカットしていきます。製品の価値を決めるともいわれるこの丸太挽きは、豊富な経験が求められる重要な工程です。構造材や内装材などに加工された製品は、含水率20%程になるまで乾燥され出荷を待ちます。単一製品を大量に作る工場とは異なり、木の特長を1本1本見きわめ、ニーズにあわせた多品種の材を作ることができるのは産地・天竜の特長のひとつです。



産地として



TENRYU-ZAI | supply

## 育林から納品まで、 一貫した体制が天竜の強み

文明年間(1469年～)に始まるとされる天竜の植林。500年以上にわたる林業の歴史があるこの地域は、大都市圏などの木材消費地に近いことから江戸時代や第二次世界大戦後の住宅需要に応えるべく、材を供給してきました。そのため、木を育てるところから、伐採・製材・集約・管理・流通の一貫した流れが確立されています。FSC®認証の取得にも積極的に取り組むなど、管理の行き届いた森林から生まれた木材のトレーサビリティもすすめています。

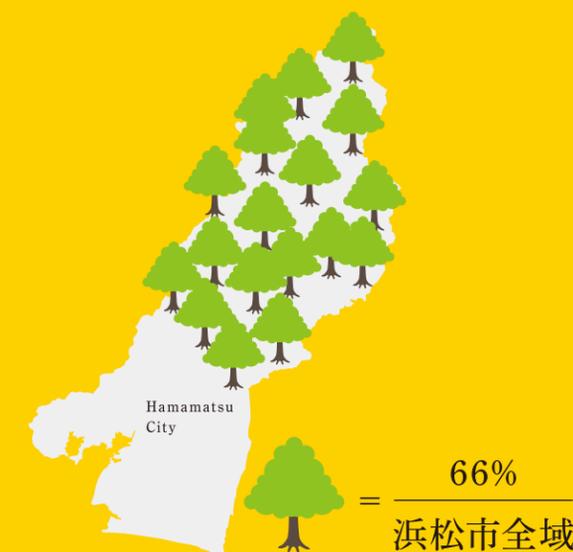
# 天竜材 の特徴

天竜材が育つ北遠地域は、南アルプスと天竜川によって作られた急峻な山林地帯でありながら、温暖で雨量にも恵まれ、雪もほとんど降らないため、根曲がりも少なくまっすぐな木に成長します。たっぷりの陽を浴びながらゆっくりと成長するため、年輪の詰まった美しい木目と優しい肌触りが自慢。同じ太さの木の場合、南の産地と比べ年輪の密度が高いのも特長のひとつ。目の詰まった粘りのある良質な木として古くから重宝されてきました。天竜杉は赤身が濃く、油分が多いため粘りが強く、カンナをかけた後は塗装がいらぬほどの美しい艶がみられます。美しい木肌の天竜檜は、独特の香りが特徴。

また、江戸時代より受け継がれた植林への思いや、手間ひまを惜しまない丁寧な枝打ちや間伐が、「まっすぐ」な天竜材を生み続けています。

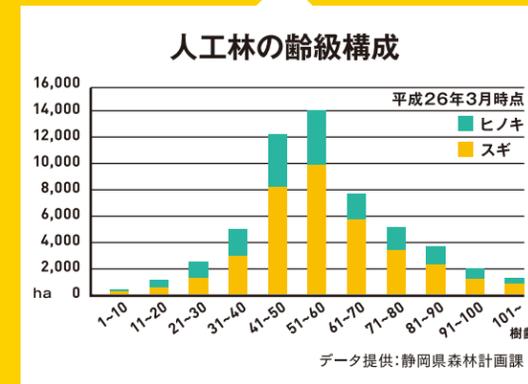
## ① 40万戸相当の豊富な木材資源

浜松市の森林面積は約10万3,000haで、これは市全域の66%にあたります。国有林をのぞいた民有林に占める人工林は76%(6万2,000ha)にもなり、静岡県的人工林率59%や、全国平均の46%を大きく上回る数字になります。蓄積する樹種はスギが1,162万3,000m<sup>3</sup>(67%)と最も多く、次いでヒノキが526万4,000m<sup>3</sup>(30%)となります。木材供給量は17万m<sup>3</sup>(平成16年実績)を誇り、平成27年には23万m<sup>3</sup>に達する見込みです。人工林の蓄積は、約40万戸分の住宅に相当する量といわれ、日本有数の木材産地として広く全国に知られています。



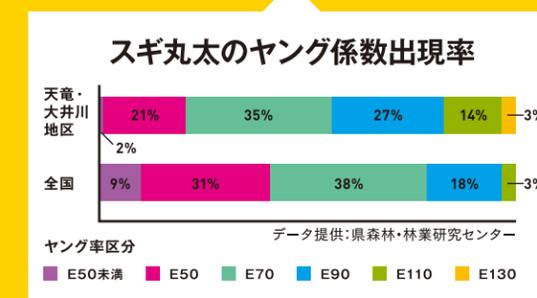
## ② 住宅木材に適した51年生以上が約60%

現在、天竜の人工林では、第二次世界大戦後に植林し、成長した樹齢41~60年生のスギ・ヒノキが多くあります。住宅木材に適しているといわれる51年生以上のものは全体の約60%を占め、なかには樹齢100年を越える木も存在しています。豊富な資源を背景に、今後も住宅用木材として天竜杉・天竜檜の安定した供給が期待されます。



## ③ ヤング係数E70以上が全体の約8割

木の変形耐性を表す数字としてヤング係数というものがあり、数字が大きいほど強度があります。多くの工務店が住宅設計の目安としてヤング係数E70以上を基準にしています。天竜の杉丸太においては、ヤング係数E70以上は約80%。E90以上においても全国平均より高い数字を示し、天竜材が丈夫で加工しやすいということを裏付けています。





# 天竜材 を使う

構造材に下地材、  
仕上げ材まで  
家一棟に必要な材が  
トータルに揃う

広大な森で丁寧に育てられた天竜材。木の特徴を熟知した職人が、1本の木から最適な材を切り出します。土台や通し柱、梁といった構造材をはじめ、胴縁や垂木などの下地材、床板や天井板などの仕上げ材、天竜材だけで家を一棟建てることのできる製品を用意できます。単一製品を大量生産するのではなく、さまざまな製品を取りそろえることができるのも大きな魅力です。